

平成19年 5月17日

担当：准教授 樋口良之

システム設計論 課題1
UMLによる対象システムの表記

次の注意事項に従い、UML (Unified Modeling Language) を用いてシステムを表記しなさい。

- (1) 対象とするシステムは各自で選定し、適切な名称を付与する。あまり大きなシステムを選定しない。また、あまりにも簡単なシステムを選定しない。一見、単純なシステムでも、掘下げて考察してみると、かなり複雑なものである場合もある。
- (2) システムの概要を200字程度の日本語で記述する。
- (3) クラス図を作成する。読者の理解を深められる場合にはオブジェクト図も作成する。
- (4) システム全体あるいは一部の挙動について、シーケンス図、コラボレーション図、アクティビティ図のいずれか一つ以上を選択し、表記する。
- (5) 関係者などとシステムのかかわりあい理解できるようにユースケース図を作成する。

以上について日本語でレポートを作成し、平成19年5月31日(木) 13:00から13:15の間の授業のときに提出する。なお、遅刻、欠席などの場合には、知人に預けるなどの手配をする。

レポートはA4サイズ縦置きで作成する。A3サイズの用紙へ記述する方が見やすい場合もあるが、そのような場合には、記述したものを、A4サイズに収まるように折りたたみ、A4サイズのレポートとしてまとめる。ステープラーでとめたときに、見開きできないような状況にならないように注意する。

レポートに表紙はつけない。レポートは左上を1箇所ステープラーでとめる。左側中央を基準に2穴のパンチ穴をつくる。レポートには用紙の右上にページ数を付す。例えば、全5ページのレポートであれば、1/5、2/5、3/5、4/5、5/5といったようにページを付す。また、レポートに表紙を付すことを望んでいないため、1ページ目の最初に提出日、提出先、提出者学籍番号と氏名、レポートに適切なタイトルを名付け記述する。

例えば、最初のページは、次のようになる。

— — —最初のページのイメージ例 ここから— — —

1 / 5

平成19年 5月31日

システム設計論ご担当
准教授 樋口 良之 様

200610A2
産業 太郎

UMLによるパスポート発行窓口のシステム表記

1. 対象システムの名称と概要

— — —最初のページのイメージ例 ここまで— — —

以降、レポート作成者の判断で自由に記述してかまわないが、章、節、項などの区分をしたポイントシステムによって記述する。区分ごとに適切なタイトルを付して記述するなど、理解されやすい表記につとめる。「ビジネス社会に有用な人材となる訓練を兼ねた授業とする」との観点から、ビジネス文書、報告書などを念頭に、レポートを作成する努力を求める。話し言葉ではなく、書き言葉で記述する。

レポートの記述にあたっては、上下左右の余白を25ミリ程度とり、大きすぎず、小さすぎず、配慮する。また、文字の大きさは、12ポイントを基準とする。行間は、詰めすぎず、広げすぎない。本手引きを目安に作成する。

- ・レポートをまとめるにあたり、できるだけ図表を多用する。
- ・レポートが作成できたら、必ず精査し、誤字脱字の修正、ロジカルシンキングといった視点に立って、加筆修正を繰り返し、本当に満足いくレポートに仕上げる。エビデンスとして、作成したレポートに自ら添削したものを添付して、最終レポートとして提出することが望ましい。
- ・本文中に引用、参考にした書籍、論文、記事などを「文献」として、レポートの最後に記載する。

例： (1) 島田、経営情報システム 改訂版、日科技連、pp273-282、2001